

1 職業と就職(2006年、単位%)

	4年生大卒就職者の職業構成		全体の職業別雇用者構成	
	男性	女性	男性	女性
専門的・技術的職業	32.5	31.1	13.5	17.6
管理的職業			5.1	0.8
事務	26.4	40.0	15.2	32.1
販売	27.8	19.0	14.9	12.2
保安・サービス			8.9	16.1
運輸・通信			5.7	0.4
工場労働			28.9	12.9
労務作業			6.0	6.5

資料
No.1
08.4.1

資料:「学校基本調査」「労働力調査」

注:大卒就職者では、男性の13.4%、女性の9.9%が「その他」
専門・技術職のうち、男性では24.9%が技術者、女性では10.6%が
保健医療関係、6.7%が技術者、5.9%が教員

新規学卒就職者の学歴別構成

区分	中学校卒		高等学校卒		短期大学卒		大学卒	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
1960年	54.4	46.2	42.1	41.3	1.7	1.0	1.8	11.5
1970年	20.2	19.8	64.8	56.0	10.5	1.7	4.5	22.5
1980年	5.2	7.2	60.6	50.6	22.5	1.9	11.7	40.3
1990年	2.9	6.4	53.7	51.5	28.5	1.9	14.9	40.2
2000年	1.2	3.3	34.0	40.5	28.7	1.9	36.1	54.3
2006年	0.7	1.9	28.1	37.3	19.5	1.9	51.7	59.0

* 文部科学省『学校基本調査』各年版より作成

4 年齢階級別・週就業時間別雇用者比率 (%)

	人数	週就業時間別雇用者比率 (%)				
		43~45h	46~48h	49~59h	60h以上	
男性						
15~19歳	1315	7.5	23.2	22.2	16.5	38.7
20~24歳	9219	10.9	17.6	27.1	24.4	51.5
25~29歳	18986	10.5	16.1	26.7	30.6	57.3
30~34歳	20332	9.6	15.4	27.9	32.4	60.3
35~39歳	18220	9.8	13.9	27.5	32.7	60.2
年齢計	146546	10.7	16.5	26.2	26.2	52.3
女性						
15~19歳	907	11.1	15.4	14.8	10.6	25.4
20~24歳	8183	13.4	17.4	20.2	11.6	31.8
25~29歳	10291	17.0	16.0	18.7	10.1	28.8
30~34歳	7317	17.2	14.4	15.8	7.9	23.7
35~39歳	6513	13.8	15.2	14.6	8.0	22.7
年齢計	67658	14.3	15.6	16.4	8.7	25.0

資料: 総務省『平成14年就業構造基本調査報告 全国編』(2004年)より作成
注: 年間就業日数250日以上の雇用者(人数は単位100人)

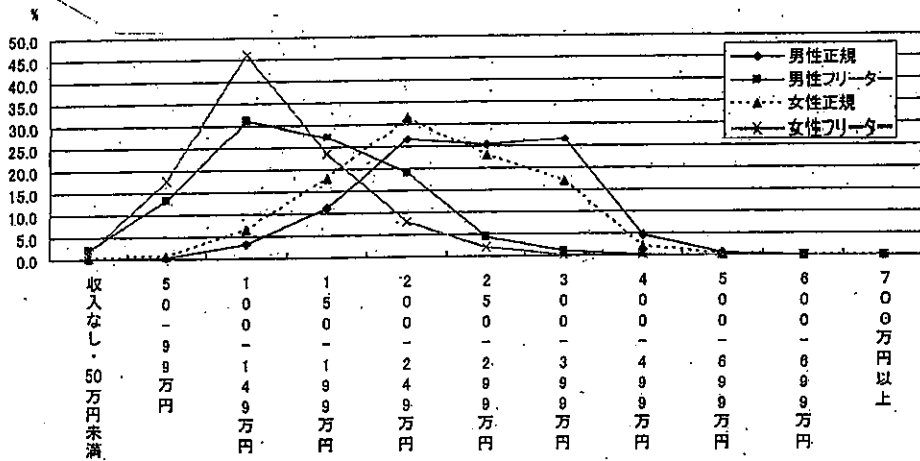
3 ある私学の卒業生進路・分布比率

	男女計	男子	女子
卒業年度対象者	100	100	100
留年者	18	16	22
卒業者	84	78	95
就職希望者	42	37	52
内定者	45	36	42
就職活動継続	5	6	4
就職以外の進路	7	10	11
不明(無届)	25	31	33

・2004年3月時点
・内定者÷就職希望者=86%(男女計)
・内定者÷卒業者=43%(男女計)

※資料(生)

00.10.3平均



※日本労働研究機構調査

資料 No2 08.4.1

7

若年男性の結婚率と年収などの関係 (02年時点、年収の単位は万円、結婚率は%)

	25~29歳	30~34歳
有業者全体	32.4	57.2
(うち年収別)		
100~149	15.3	29.6
150~199	17.4	34.0
200~249	22.8	40.8
250~299	26.3	42.3
300~399	35.6	52.9
400~499	43.9	62.5
500~599	52.7	71.0
600~699	57.6	78.9
700~799	52.2	76.6
800~899	50.8	74.3
900~999	42.3	65.1
1000~1499	72.5	71.1
1500以上	73.9	90.0
(雇用形態別)		
正社員(役員含む)	34.7	59.6
非正規雇用(パート・派遣など)		
14.8	30.2	
47.9	64.5	
無業者全体	7.5	15.8

※JIL-PT調査、原資料は『就業構造基本調査』

6

職場におけるストレスとメンタル・クライシスの増加

- ・厚労省 2004年調査: 2004年の精神疲労, 1983年以降で最多の130人/過労自殺も最多の45人
- ・厚労省 2005年調査: 過労による脳出血・心筋梗塞などの労災認定, 過去最多の330人(40~50代が多い), うち過労死157人, 鬱病などで認定127人(20~30代が多い), うち自殺40人
- ・厚労省研究班調査: 子どもの病気に対する職場の対応—無回答45%, 理解協力なし8.6%, 理解や協力はしてくれるが休めない24.2%
- ・社会経済生産性本部 2005年職場対象労組調査: 30代「心に悲鳴」, 鬱・神経症多発/最多原因は「職場の人間関係」30%
- ・社会経済生産性本部 2003~05年調査: 自殺を考えたことのある比率, 残業が月に60時間未満で3.6~4.7%, 60~80時間未満で6%, 80時間以上で7.1%
- ・社会経済生産性本部の上場企業218社調査: 3年間で「心の病」増加61.5%, 「1か月以上休んでいる従業員がいる」7割以上, 最多で急上昇の年齢層は30代
- ・JIL 9407人調査: 「仕事にストレス」60.9%, とくに管理的な仕事・専門的技術的な仕事, 販売, 事務/正規労働者に多い/主な原因は「会社の将来」, 「仕事の責任」, 「仕事量」, 「職場の人間関係」
- ・東京都労働局 2005年調査: 過労原因の労災認定者の2割が工場長, 部長, 店長, 校長……などの管理職(48人中11人, 過労死25人中5人), /非管理職では営業職, 自動車運転手, SEが多い
- ・労災病院医師調査: 鬱病を「抑鬱状態」「心身疲労」と軽めに診断書を書く傾向, 職場の処遇への影響を考慮

資料: 朝日新聞報道のまとめ(2005年夏~06年夏)

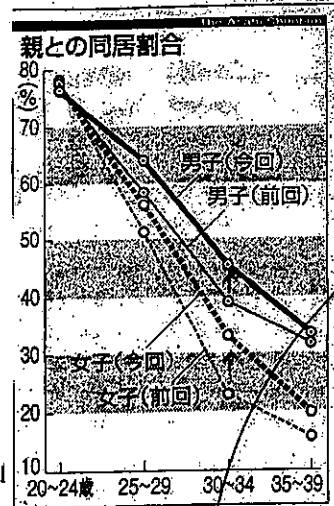
05.8.3

朝日新聞

06.7.22

25-29才 64.0 56.1

30-34才 45.4 33.1



調査は5年に1回行われ、全国の1万1111世帯から回答を得た。世帯規模は94年の調査より1人・99年の2.9人へと減少を続ける。2人世帯64.0%、女性が4.8%増え、男性が4.8%減った。調査は5年に1回行われ、全国の1万1111世帯から回答を得た。世帯規模は94年の調査より1人・99年の2.9人へと減少を続ける。2人世帯64.0%、女性が4.8%増え、男性が4.8%減った。調査は5年に1回行われ、全国の1万1111世帯から回答を得た。世帯規模は94年の調査より1人・99年の2.9人へと減少を続ける。2人世帯64.0%、女性が4.8%増え、男性が4.8%減った。

20代後半 ハラサイト化進む
「親と同居」男性は64%

04年調査 06.8.22